藤原宮跡の整備(1)

飛鳥藤原宮跡発掘調査部・平城宮跡発掘調査部

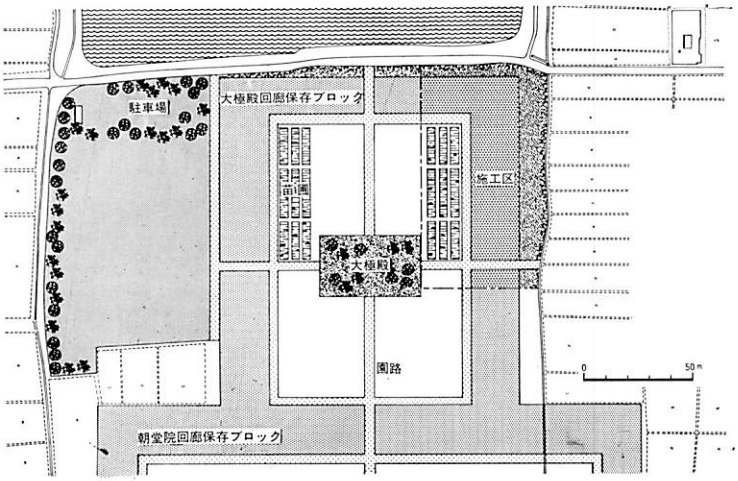
1971年度から始めた藤原宮跡地の買収は1974年までに約70000㎡を終了しており，それらは大極殿北部一帯に比較的まとまっている。大極殿・朝堂院地区については，一部を戦前に日本古文化研究所の発掘調査で確認しているが，その規模や位置などはまだ明確になっておらず，本格的な整備を行うためには今後の発掘調査をまたなければならない状態である。

現在，買収地については草刈り程度の整備をしているが，地元からの強い要望や橿原市の都市計画等に関連して，宮跡の将来図が必要となった。将来図の基本構想に関しては，宮跡が飛鳥・藤原地域をめぐる周遊の起点あるいは終点になるため，アプローチの問題や，大和三山を周辺にもち，平城宮とは異なった風土と景観をもつ地域であること，周辺の水利・発掘調査など多くの問題の検討が必要であるが，比較的まとまった買収地を持つ大極殿・朝堂院地区について5年程度の第1次暫定整備計画をつぎのように作成した。

1．一部発掘成果をえた大極殿・朝堂院およびその回廊など宮の中心的遺構を整備表示することにより，遺跡を理解し易くしその活用を計る。 2．規模・位置など全貌が確認されていない遺構は，推定位置の両側にさらに最低5ｍの幅を保存ブロックとして造成し，砂利敷など将来の発掘に支障のない材料を用いて，位置を表示する。 3．大極殿が遺跡の中心であり，現在の大極殿土壇が大和三山や藤原宮の展望地になっていることや土壇上の森が藤原地域のランドマークにもなっていることから，大極殿を中心に利用動線を計画する。 4．回廊に囲まれる地域は観賞を主体とするような利用を考え，植栽に重点を置き，将来本格的整備に利用すべき樹木の苗圃にもなるよう静的な空間として計画する。 5．買収地内通過用水路や排水路は，回廊両側溝を利用して設け，遺構表示との混乱を避ける。 6．大極殿回廊北西部（発掘済）の遺構の希薄な地区においては利用者のために，便所等の便益施設あるいは自転車，自動車の駐車場を考える。

以上の趣旨にそって本年度は大極殿東北部にあたる旧鴨公小学校跡地約6500㎡について整備を行った。

（渡辺康史）



藤原宮跡整備図